

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	パール・レンジャー	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.550	△RG	0.038	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：パール・レンジャー

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤

番

比較対照ボール：レッド・レンジャー

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 インチ

表面加工

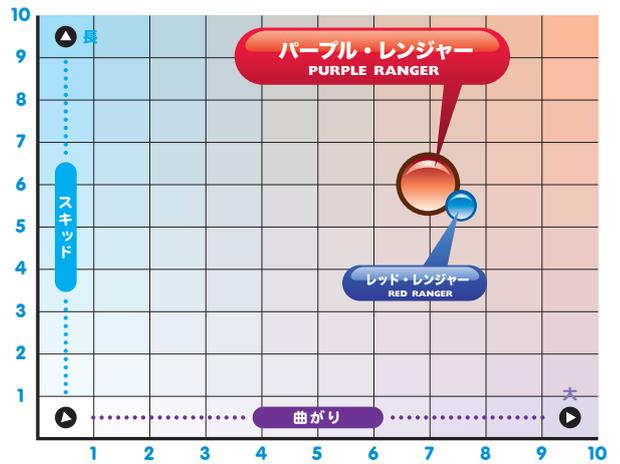
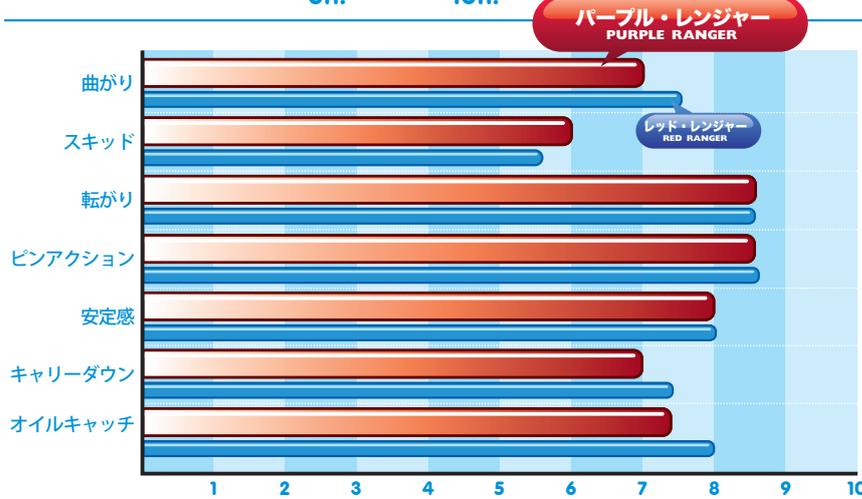
- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤

番



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



レーンコンディション	バックエンドリアクション	レンジス
Light Oil	Smooth	Early Roll
Light to Medium	Smooth to Arc	Early to Med
Medium Oil	Arc	Med-Lane
Medium to Heavy	Arc to Sharp	Med to Late
Heavy Oil	Sharp Angle	Late Roll

ボールの評価

大会における中盤から後半のゲーム展開。インサイドよりのラインになってくると走りの中に入射角が必要に感じてくるボウラーも多い事でしょう。そんなとき、オイルキャッチは弱すぎず、強すぎずして、バックエンドではしっかりグリップして欲しい…。そのようなボールを求めるボウラーは多いのではないのでしょうか。そんなボウラーの要望をかなえるのがこのPURPLE RANGERです。

慣性が高めでコア設定も先での動きに焦点をあてたEVER-TRUE Symmetrical Core。走りの中に滑り感はなく、それでいて長めのスキッドが特徴のHYPER X Reactive。Medium Lightなコンディションでこれほどアグレッシブさがあり、攻撃的なボールはそう探せないと思わせるほど、性能の面でもコストパフォーマンスの面でも一歩抜きに出ているのがPURPLE RANGERの特徴と言えるでしょう。

RED RANGERとの比較投球では、キャッチの面ではSolid素材のRED RANGERに軍配は上がります。しかし入射角の面ではPURPLE RANGERのほうが遥かに鋭く、攻撃性を感じます。やはりそれはバックエンドが俊敏であるほどスキッド能力が欠かせなくなるわけで、ある意味RED RANGERよりもスキッドしていることの表れであること。双方Medium Light領域のボールでオイルが多い時はオイルを感じすぎる反面、動き始めるコンディションになると一気にボールの良い部分がたくさん読み取れるようになり、RED RANGERからPURPLE RANGERへのボールチェンジも可能。歴代RANGERの中でもPURPLE RANGERがよりバックエンドがアグレッシブに感じるので、後半戦で攻撃的なラインをとり、勝負に行く方は是非お勧めです。

私もインサイドよりのラインになったとき、「もうひと転がりの入射角」が欲しいシーンにあたる場合があります。そんなとき入射角が取れるPURPLE RANGERは気持ちよく投球することができます。

特記事項

レンジャーシリーズ中、最もバックエンドの動きがシャープに感じる、ミディアムコンディション以下の領域で先での動きを求める方には類をみない性能に仕上がっています。